

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日： 平成25年3月4日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073300313		
法人名	株式会社 太平洋		
事業所名	グループホーム ファミリー	ユニット名	
所在地	福岡県宗像市平井1丁目19-1		
自己評価作成日	平成25年2月4日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構	
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階	
訪問調査日	平成25年2月28日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

22年度より実施している地域行事の参加と地域の外出行事は浸透してきて毎月の計画以外でも入居者の要望によりいつでも買い物や散歩など外出が出来る柔軟な支援ができるようになりました。全職員は理念でもある「心のふれあいを大切にする家族でいたい」が実践され、又9月よりヘルパー2級の実習事業所として毎月約6名の受け入れをしています、職員自身も勉強しながら理念である「知識の習得と技術の研鑽」の実践に努めています。今後も初心を忘れずに理念に添って日々「ご利用者本位」を第一にした質の高い高齢者介護に取り組んでいきたいと思ひます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームファミリーでは、“利用者の事が大好き”と言う職員ばかりで、常に利用者と同じ目線で優しく声かけをされる姿が日常となっている。朝10時になると2階の方も1階に集まり、全員でリハビリ体操をされている。踊りの好きな方には踊りを披露して頂き、歌が好きな方には歌のリーダーになって頂いており、起立訓練や屈伸運動を毎日続ける中で、トイレでの排泄や洗身等ができるようになった方もおられる。利用者の生活歴や特技を把握する取り組みは続けられ、習字が得意な方には一緒に習字道具を買いに行き、習字に集中できる時間が作られたり、百人一首が得意な方には職員がスマートフォンでアプリをダウンロードして、一緒に楽しんでいる。入浴に関しても、職員全員の努力で週3回に増やす事ができ、湯船に気持ち良さそうに浸かれている利用者との会話も増えている。24年秋から管理栄養士が勤務しており、利用者の方が調理を“手伝おう”とされる姿も見られている。今後も日々の生活の中で“役割と楽しみ”を増やしていくと共に、ご本人の思いや表情などを記録に残していく予定にしている。

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個別のケア・カンファレンスの時に方向性は理念に基づいて話し合い合議制にて決まった事は共有して実践している。	職員の離職もほとんど無く、“「ファミリー」は、ご入居者ご家族の皆様と私達スタッフが心のふれあいを大切にする“家族”でありたいと考えています・・・”と言う理念の実践に努めてこられた。面会に来られる家族が増えており、職員と一緒にお茶をしながら談話する機会も多く、利用者の方々も喜ばれている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加して4年目となるので、顔見知りになり、庭になった果物や野菜を頂いたりしている。	地域行事に参加する事を大切にしている。地域の夏祭りや花見に行った時には場所の確保をして下さったり、ホーム主催の夏祭りや秋の音楽祭には、ボランティアの方がオカリナや大正琴の演奏に来て下さっている。健康福祉委員ができた事で、地域行事や地域の介護状況を伺い、お互いにアドバイスができる関係になってきている。	平井地区子供会の子供神輿がホームに来て下さっており、利用者の方も楽しいひと時を過ごされている。今後も引き続き、地域の学校行事や幼稚園行事の参加も含めて、子供達との交流を増やしていく予定にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内の居宅で介護をされているご家族の方からの見学や訪問が増え相談や悩みを受け傾聴し共感を得る事で事業所としての地域の方々への貢献と考えています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域住民代表として平井区民生委員、新たな健康福祉委員、市職員の参加で2ヶ月に1度実施している。事業所の運営状況や入居者の様子を伝え地域行事の参加や家庭介護の状況、行政から他事業所の情報などの意見をサービスの向上に活かしている	会議では状況報告や行事報告等を行い、宗像市の方から災害時の対応や協力体制の意見を頂き、消防団の紹介もして頂いた。健康福祉委員や民生委員の方からも地域の高齢化率や独居の方の情報を頂き、対策の検討が行われている。24年度から家族も交代で参加して下さい、和気あいあいとした会議になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サブマネジャーは市の担当者に運営推進会議のあり方を相談している。 ホームの現状を報告するなど、日頃から市の窓口を訪れたり、運営推進会議を通じて密に連絡をとりあっている。	宗像市介護保険課の窓口に地域密着事業所のパンフレットを常備して頂き、電話での問い合わせや見学等が増えている。“地域密着ネットワークむなかた”に管理者が出席し、市の方や他事業所との意見交換を続けており、市の方に“運営推進会議の参加メンバーの構成(家族)”などを相談した時も親身にアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を含み4名の職員が認知症実践研修にて身体拘束の研修を受けてます。更にミーティングを通じ他職員全員に教育、報告にて周知徹底しています。玄関の施錠につきましても、毎朝30分の入居者様と清掃の時間に開放し、毎日曜日の午後レクで1時間は開放している。個別支援として外出行事を毎月実施している。	交通量が多いために玄関を施錠している事を、家族や地区役員等に理解して頂いている。「外に出たい」と言う利用者の方もおられ、時間を決めて玄関の開放をしている。気候が良くなる時期にはラジオ体操を中庭で行い、レクの時間を多くする予定にしており、職員の言動を含めて“身体拘束0”の実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は虐待防止研修を受けている、さらに全員が周知徹底できる様に申し送りやミーティング時に意識付けをしている。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者2名が成年後見人制度を活用をされており、管理者が研修に参加して勉強しておりホーム内にも資料を常設していつでも閲覧できる様にしている。勉強会を通じて理解を深める取組もおこなっており、後見人の面会時や担当者会議等にて情報交換を実施している。	市主催の研修(24年夏頃)に職員が参加し、弁護士から制度に関する講義を受ける事ができた。管理者などが、利用者の後見人や市役所の保護課の方との話し合いを密に続けており、統括やサブマネージャーが中心になり、それぞれの家族状況等を考慮し、制度利用の必要性を個別に検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に締結、解約又は改定等は説明を行いご家族の不安、疑問点などは契約時点でお答え対応している、その後については電話にて解決回答できるように取り組んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は日勤中心の勤務となり面会時にはご意見、ご要望を受けサブマネージャーへの相談のうえ支援に反映させると共に意見、苦情等は運営推進会議での議題として取り上げ助言を頂き改善できる仕組み作りあげている。	契約時にサブマネージャーから、家族会や行事の案内をしており、入居後は家族の方も積極的に行事等に参加して下さっている。気軽に要望を言って頂ける関係であり、家族の面会も増えている。ホール内に貼ってある行事の写真を見て、「年賀状を作りたいので写真のデータが欲しい」と言う要望があり、お渡しする事ができた。	今後も更に、利用者の方々の日頃の生活状況(体操やレク、食事、お茶会など)を写真に撮り、家族の方に日々の生活状況をお知らせしていく予定にしている。家族の面会も増えており、家族と一緒に集える企画も増やしていきたいと考えられている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の仕事の中で職員の意見、提案を聞きミーティング等を通じ議題としてあげ合議制にて改善できる仕組みを作り上げている。又身近な課題については毎日の申し送り時に話し合いをしている。	職員からの提案が増えており、責任を持って行事企画や運営を行う姿が見られている。家族会参加の施設行事である「運動会」「夏祭り」「クリスマス会」等での備品購入についての意見もあがり、上限金額を設定した範囲内であれば自由に購入できるルールを活用しながら、入浴福祉用具の追加購入等も行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等により給与水準の見直しや正職員への登用等を行っている。又資格取得については受験対策や資格取得に向けた勧奨を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、最初から採用対象からはずすことはしていない。個人の能力を見極め仕事量の配慮をしているパソコンが得意な方にはファミリー通信を作っていたいたり、裁縫が得意な方、ダンボールを使って小物を作るのが得意な方、ギターによるコンサートをするなど、得意分野を把握し、力を発揮して頂いている。資格取得の資料等も準備し指導する等職員のキャリアアップにも支援を行っている。	生け花、習字、百人一首、飾り付け等、職員個々の力が発揮されている。統括、サブマネージャーとも連携しながら、管理者中心に更なるチームワークが作られている。系列施設での研修も行われ、職員の視野を広げる機会にもなっている。幹部からの指導もあり、質の向上に向けた取り組みが続けられている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	サブマネージャー、管理者が人権尊重の大切さを職員に伝えている。内部研修への参加も検討しておりミーティングの時間に個別の具体例を挙げて、人権を尊重することを職員全員で話し合っている。倫理についての研修も行った。	サブマネージャーは介護計画のアドバイスを続けており、ご本人らしきやお力の発揮ができる計画作りの支援を続けている。管理者からも、「ご本人の横に座って言葉を大切に受容し、待つケアを実践するよう」職員に伝え、ご本人のペースに合わせた支援が行われている。職員は外部の人権研修にも参加し、伝達研修も行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマに合わせて本人の希望や能力を勘案した研修会の案内を行っている、参加希望者には研修日程に合わせた勤務形態をとっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は21年度より「地域密着ネットむなかた」の行政主導のプロジェクトチームに参加して勉強会、相互訪問、情報交換会、研究発表など活動をして来ました。今年度も引き続き活動しサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接の中で本人・家族の意向を開き取り、センター方式に基づくアセスメント用紙を活用しご本人の思いや不安・要望等の把握に努めている。意思疎通の困難な方の思いが難しく、日々関わることで信頼関係を築き、安心して生活できる支援内容を職員全員が共有するようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に担当省会議をサブマネジャー、ケアマネジャー、管理者、看護師とご家族で開催している その中でご家族の要望、不安を確認して今後のケアプランに活かし職員全員の共有のなかで支援できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時担当省会議時にご本人ご家族のご要望を伺い、すべてを受容することで、まず一番困っている内容について支援の方針を決めている。若いとき習字が得意な入居者さんと一緒に習字道具を買いに行き趣味に集中することで施設生活を楽しんでいただく支援をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時に担当省会議をサブマネジャー、ケアマネジャー、管理者、看護師とご家族で開催している その中でご家族の要望、不安を確認して今後のケアプランに活かし職員全員の共有のなかで支援できるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望に出来る限り答えられる様に、外出行事や施設内行事に家族会を通じて参加を以来して共に楽しめる環境をつくり、本人と家族と職員の絆が深まるように努力している。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院で看護師をされていた時の部下の方が20数年ぶりに面会に来られ、当時の仕事ぶりやプライベートでの話しをして頂き、カンファレンスの参考にさせて頂きました。今後も面会の依頼をいたしました。	面会時には職員から声かけしている。初めて面会に来られた方には少しお時間を頂き、差し支えない範囲で生活歴や関係性を教えて頂くようにしている。看護師が通院介助をしている時に、「ここが仕事場」などと場所を教えて頂く事もあり、職員間で情報共有している。家族と一緒に墓参りや自宅に行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時からの朝リハビリ体操は全員がリビングにて参加され全員が顔を見渡せる環境で実施されています。特に踊りの好きな方には披露して頂き、歌をよくご存知のかたは歌のリーダーとして利用者同士が関わりあえる時間帯にしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に何時でも相談に応じる事をご家族へ約束しています。また入所時の写真をアルバムにしてお渡し施設生活を思い出していただく取り組みをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式に基づくアセスメント用紙を活用しご本人の思いや意向の把握に努めている。特に意思疎通の困難な方たちの思いの把握が難しく、職員同士で把握できている 内容や量にも差があるため、ミーティングの場を活用し、職員全員で共有できるようにしている。	家族には担当職員が生活歴や趣味等を伺い、ご本人から把握できた情報も含めて、複数の職員がペンの色を変えてセンター方式に記録している。意思疎通が困難な方にも言葉かけを増やし、一緒に歌を唄う機会を通して思いを引き出すようにしている。ゆっくり会話する機会を増やしている。	今後も引き続き、意思疎通が困難な方の表情や単語を引き出すように努めていくと共に、聞きとれた単語や行動の背景にある感情や原因も、日々の記録に残していきたいと考えている。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時のカンファレンスで生活歴、馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等は記録されているので全職員は把握は出来ているが、その後の面会時にもれていた内容の確認をしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートのD1、D2、C1ー2シートを活用し本人の心身の状態を把握している。記入は計画担当だけではなく、受け持ち担当の職員や変化があったときの職員がそれぞれに記入し全員参加型にしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用して計画作成担当者が中心となりご本人・ご家族の意向を確認し各ユニット計画作成担当者がプランの原案を作成している。なるべく本人が出来ることを主体にするように努めているが一部課題・目標がスタッフの視点で作成されているものもある。ようやく人員も安定期に入り、アセスメントを強化してご本人様本位のプラン作成していきたいと考えている。	海女をされていた方が「海を見たい」と言われるようになり、「海辺を散歩する」と言う計画が追加された。踊りが得意だった方には、昔着ていた着物を家族に用意して頂き、「踊りを披露する」と言う言葉が計画に盛り込まれた。利用者に応じた役割を計画に盛り込むように努めている。	“地域で暮らす”視点を大切に、ホーム独自の地域資源マップを作成し、カンファレンスの時などに活用できればと考えている。また3表(日課表)も活用し、24時間の支援内容(ご本人のできる事も含めて)を明記する事で、家族との外出の時等に活かして頂く予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく把握出来るように、ユニット毎の記録から個別に細分化した記録方法に変更しました。その結果アセスメントも細分化でき介護計画の見直しに役に立っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別支援の外出の取組みを強化してきて軌道にのって来ている。お買い物や散歩外出はいつでも柔軟に対応できるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区公民館で開催される、夏祭り、盆踊りへの参加は4年前より行なっており、今では招待スペースまで用意されている。又消防署が近距離にあり迅速な対応を約束されている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の意向を伺い、協力医療機関以外でもかかりつけ医を希望される場合、受診支援をしている。	受診は主に看護師が行い、家族には電話で報告し、後日面会時にも詳細に報告している。定期的な往診もあり、必要に応じて専門医への紹介も頂けている。何でも相談できる先生であり、職員の安心にもなっている。看護師の指導で医療面の勉強を続けており、職員の観察力も高まり、早期発見に繋げる事ができている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は身体的及び精神的な気づきを看護申し送りノートへ記録として残し、看護師勤務時に相談往診、受診を適切に受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会の頻度を上げて病院関係者との情報交換は常に実行している。また往診時には経過報告を確認し出来る限り、早期退院ができるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状態が変わった場合、重度化したときにどう対応するか、管理者、看護師がご利用者、ご家族と話し合い、状況に応じては医師への相談もおこなっている。入居時ホームで終末期を迎えたいと希望されていてもその後状況が悪化した場合入院を希望される家族もおられ、繰り返し話し合いをし意思の確認をおこなっている。	約6年前にホームで終末期ケアが行われた。終末期の指針を契約時にサブマネージャーが説明し、その時点の意向確認を行っているが、家族の意思は揺らぐものであり、体調に応じて随時意向確認を行い、不安を和らげるように努めている。医師とは24時間体制で連絡が取れ、夜間も駆けつけて下さる。病状に応じて入院手配も迅速にして下さり、医師から家族への説明も行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルに基づき全職員の教育を実施しました、又応急手当について看護師より初期対応及び発生時にOJTとして訓練を行っているが協力医療機関から感染症についての勉強会や研修会などは出来る限り一般職員も参加していただいている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災マニュアルがあり防火管理者を中心に避難訓練を実施している。新たにスプリンクラー、通報装置の教育も実施、日頃から火災地震等については職員間でも意識した会話をしている。協力体制は民生委員を経由して体制を築いている	2階から1階に作られている滑り台を使用し、利用者と一緒に夜間想定避難訓練をしている。年に1回は消防署の方も一緒に訓練しており、行政の方から消防団も紹介して頂いている。近くにプロキベークの宿舎があり、災害時の協力依頼をしている。災害に備えて、1週間分の食料と数日分の飲料水が確保されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定に基づき研修をおこなっており、「こころの抑制」をしないようにミーティングを通話し合いをおこなっている。ご利用者のプライバシーを損ねるような声かけにも注意し、羞恥心にも配慮した対応をおこなうように心がけている。	“利用者が大好き”という職員ばかりである。職員全員が入居者個々の生活を大切にアセスメントしている姿を、管理者は高く評価している。“方言”の使い方にも配慮し、“ちょっと待つて”を使う前にも、理由を先に伝えるようにしている。常に利用者の目線で声かけをしており、羞恥心への配慮も続けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に対してコミュニケーションを通じて本人に聞き出し、本人のやりたいことを支援できるように努めている。例えば「買い物」「理髪」「ドライブ」、食事準備など。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか、ご本人のペース・暮らしぶりを把握して、入浴拒否等のときは本人の気持ちを確認し、無理強いせず希望にそって自由に横になっていただいたり、TVを見たり、それぞれ自由に過ごしていただいている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に爪きりと髭剃りの施行を週3回のペースで実施、散髪については2ヶ月に1度福祉理美容サービスから出張にて実施している、行事や外出時にはおしゃれをし女性はマニキュアをして頂くようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様によっては盛り付け、配膳等を職員と一緒に楽しくしていますが、全体をみると職員中心に準備が進められている。重度利用者が多い為できる限り食する時にBGMを流したり、会話はさんだりの工夫はしている。	24年10月から管理栄養士が勤務し、買い物から調理まで対応している。旬の食材を使った料理が作られ、刻み食の方にはハートやお花を型どった盛り付けがされている。クックパッドの利用も減らし、入居者も一緒に下ごしらえをして下さる時もある。“とろみ食”等の方もおられ、優しい声かけをしながら食事介助をしている。	入居者の方に下ごしらえをして頂いているが、管理栄養士が専従である事もあり、調理などにもチャレンジしていきたいと考えている。“自分の畑を作りたい”と言う方のためにプランター作りを企画する等、更なる畑作りにも力を入れていく予定にしている。



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリー等を考えながら献立を作成している、生活暦や残食の状況から好みのものを把握し月1回給食会議にて改善提案を行っている。摂取量に制限があるかたには容器の大きさを変え量を多く見せたり、嚥下租爵力に合わせたとろみや刻みも個人に合わせて実施している。毎食後の食事量や水分量のチェックも個人別に実施している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立口腔ケアの出来る利用者様は職員一人に対応し、介助の必要な利用者様は義歯の取り外し、清潔、ポリデントでの支援を実施している。さらに週1回の歯科往診時口腔体操と口腔内洗浄を実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日のリハビリ時間に足踏みや立位訓練、屈伸運動をマニュアルとして取り入れて昼間のトイレ排泄を誘導することで、特に夜間パット対応からポータブルトイレ使用に切り替えていっている。	排泄が自立している方もおられ、布パンツを着用されている方もおられる。職員間でケアの統一ができており、排泄パターンを把握し、必要に応じて日中のトイレ誘導を行っている。声かけの効果もあり、失敗がなくなった方もおられる。トイレでの排泄ができるように、毎日のリハビリで立位状態が良くなるように訓練をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表にて水分不足の入居者様には24時間通して水分補強をして頂き、飲水拒否のご利用者様にはお茶ゼリーを作り取食していただき、繊維をたくさん取って頂くよう努めている。食事前の口腔ケア体操の実施やラジオ体操、散歩などで運動量を多くすることもおこなっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	リラックス効果と清潔感の保持で一日置きの週3回の入浴に変更しました。時間は一日かけてゆっくり入って頂くようにフリーの時間にしている又、汚染のあった利用者にはその都度入浴をさせていただいている。	職員全員の努力で入浴を週3回に増やす事ができ、入浴時の利用者との会話も増えている。入浴(洗髪)の拒否が見られる時は理由を丁寧に把握し、お風呂場で滑るのが怖い場合は手すりにタオル等を巻いたり、床にマットを敷いて滑りにくくするなどの工夫を続けている。脱衣所を温める等の配慮も行い、柚子湯も楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせる事を一番にして、テレビを見るのが好きな方や、ホールを歩いたり、車椅子移動されたり、自由にさせていただいている。特に就寝時間は定めてなく、本人本位で休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一人一人の薬管理をしており、症状変化があるときは担当医との連携にて用途、容量のコントロールをしている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週日曜日の午後からは気分転換等の支援として、外庭の散歩を実施している。気候が良くなると、町内の散歩をする支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と毎週日曜日に宗像大社に同行されている2名のご家族には今後も継続にてお願いし介護計画と併用させていただいている。外泊を希望されている利用者がいてその日を楽しみにしている、ご家族と相談して介護計画に盛り込むようにしている	天気の良い日はホーム周辺の散歩をされたり、庭に出て外気浴をしながら、お茶を飲まれている。季節の花見（桜・コスモス・菊花展など）に出かけたり、宗像の道の駅でお食事を楽しまれた。希望に応じた初詣に行かれるなど、個別の外出にも力を入れ、ナフコでお部屋に飾る花（造花）を買われた方もおられる。踊りの好きな方は福祉センターにお連れし、演劇鑑賞やカラオケを楽しんで頂いた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいと要望されるご入居者はおられるが、現状は施設管理でおこなっている。要望に応える為夏祭り企画では、ファミリー通貨を作り、出店でお買物をして頂く支援をしました。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、要望のある方には対応しているが、手紙のやり取りは出来てなく、ご家族からの手紙を読む事のみとなっている。レクの中に読み書きをいれ機能訓練としていて、作成物を貼付する事を年間行事の中に計画しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、ご家族が持って来ていただいた花を飾ったり、季節感を出すために手作りの貼り絵、シーズン通じて飾っている。特に今年の正月は門松をつくり初めて見るご利用者様もいて、大変喜ばれました。ホールにはソファを置き家族との団欒の空間となっている。	季節を感じる事ができるように、春は桜の花や鯉のぼり、夏はすだれや風鈴、冬はクリスマス、正月はたこや門松などがホールの壁にセンス良く飾られ、利用者との会話も弾んでいる。玄関やリビングには、外出行事や施設イベント、地域行事などで撮った写真を飾り、面会に来られた家族の方との会話のきっかけになっている。壁には職員手作りのフェルトの飾りも貼られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各リビングとホールの共有空間には、過去の行事の写真が貼られたり、アルバム、書籍を置いてあり、独りで来られても、自由に見たり、読んだり出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く過ごせるように事前に訪問した際にご家族とも話し合いをしている。新しいものではなく使い慣れた小家具や湯のみ、写真類などを持ち込んで頂きレイアウトもご家族・ご利用者と一緒に行っています。	心身状況に応じてベッドを外し、馴染みの畳に布団を敷く事で、ご自分で起居動作が可能になった方もおられる。ご自分が描かれた油絵や家族の写真、アルバム等を持って来て頂き、使い慣れた椅子やテーブル、テレビを置かれている方もおられる。仏壇を置かれている方もおられ、安心して過ごせる空間作りを続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、リビングには大きく案内表示されており、自立に向けた環境にしている。食事時間の大型表示や、各入居者担当職員の顔写真入りのメッセージを居室扉へ表示し親近感を出しています。		

**V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				



事業所名: グループホーム ファミリー

作成日: 平成 25 年 3 月 15 日

# 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先 順位	項目 番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	28	ケアプランの日課表を活用し24時間のご利用者のスケジュールや支援内容を明記する事でご家族の外出時等に活かして頂く。	ご家族に、各ご利用者の生活上の詳細な支援状況を報告し、個別支援への共通認識を持って頂き、家族外出等の質を高める。	生活の中でご本人が出来る事やお手伝い(介助)のを方法等を明記し、自立支援の内容をご本人・家族へお伝えし、共通の認識を持って頂く。	3 ヶ月
2	26	各ご利用者の行事中の様子だけでなく、日頃の生活の様子を写真に撮り、ご家族に日々の生活状況についてお知らせする。	各ご利用者の日頃の生活の様子を写真に撮り、ご家族へお知らせし、面会時の話題作りやホーム内の生活についてご理解頂く一助とする。	受け持ち担当職員と管理者が協働で日頃の生活の様子を写真に撮る。	2 ヶ月
3	42	「自分の畑を作りたい」という方のためにプランター作りを企画する等、畑作りにも力を入れていく予定にしている。	ご利用者へ下ごしらえをして頂いており今後ホームで採れたての野菜を食材として提供できるよう野菜作りにも参加をして頂く。	ホームの裏庭の花壇を畑に作り変え野菜の苗植えと水やりや収穫などスタッフ全員で取り組み、希望されるご利用者にも参加して頂く。	6 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月